

世界の企業がインドネシアに注目！

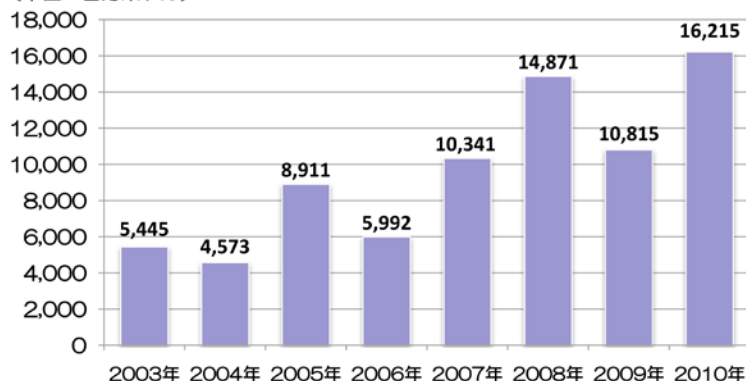
親日家が多いことで知られているインドネシアですが、近年、日本への関心がさらに高まっているようです。2006年から2010年までの4年間で、インドネシアの日本語学習者が27万人から71万人の約2.6倍に急増しました。また、首都ジャカルタにおいては数多くの日本食レストランが立ち並び、現地の富裕層の間で話題に。例えば、吉野家や大戸屋などの日本でもお馴染みのチェーン店が進出しています。進出先としてインドネシアを選ぶ理由は、今後の経済の成長性と安価で質の高い労働力などがあります。

飲食業のみならず、日系企業によるインドネシア進出も増加傾向にあります。2008年には約660社程度であったインドネシアの日系企業数は、2010年には1000社を超えました。また、日本からの投資額（2010年）はシンガポール、英国、米国に次いで第4位です。さらに、インドネシアへの外国投資額全体に目を向けてみると、2003年時点では54億4500万米ドルでしたが、2010年には約3倍の162億1500万米ドルとなりました。この勢いは、今後も継続すると思われます。

ゴールドマン・サックスの予測では、今後、インドネシアは世界のGDPランキングで、2009年の世界18位から2050年には日本を抜いて世界第7位になると見られています。著しいインドネシアの成長・発展は、今後も魅力的な投資先として注目度はますます高まりそうです。

インドネシアへの外国投資額の推移(実現ベース)

(単位: 百万米ドル)



(出所) JETRO

2050年 GDPランキング予測

2050年 (予測)	2009年	国名	GDP (単位: 兆米ドル)
1位 ↑	3位	中国	70.7
2位 ↓	1位	米国	38.5
3位 ↑	11位	インド	37.7
4位 ↑	8位	ブラジル	11.4
5位 ↑	12位	メキシコ	9.3
6位 ↑	10位	ロシア	8.6
7位 ↑	15位	インドネシア	7.0
8位 ↓	2位	日本	6.7

(出所) 2009年はIMF、2050年(予測)はゴールドマン・サックス

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社において入手した信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。本資料の一部または全部を、(I)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。<審査番号:50754.OTHER.MED.OTU>
© 2011 Goldman Sachs. All rights reserved.